

OSSコミュニティの実際

あるいは、日本のOpenOffice.orgコミュニティで学んだ個人的な教訓
はたまた、不特定多数による共同開発作業の人的プロトコルについて

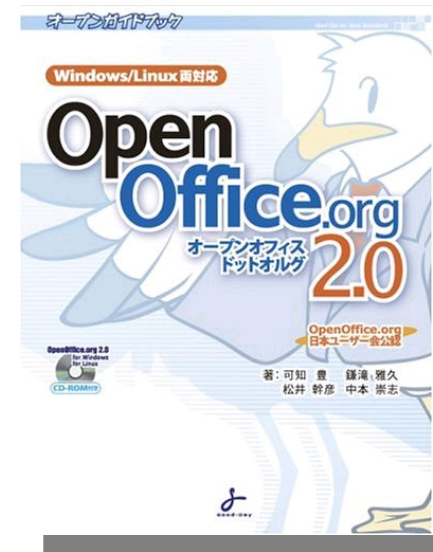
金沢工業大学大学院
知的創造システム専攻
オープンソース設計特論

2006-05-09
ゲストスピーカー
可知 豊



ゲストスピーカー自己紹介

- 可知豊 <http://www.catch.jp/>
- 本業はライター
 - OpenOffice.orgの解説書
 - オープンソースの一般向け解説書
- OpenOffice.org日本ユーザー会あたりで活動
 - ドキュメントプロジェクト コーディネータ
 - マーケティングプロジェクト コーディネータ
- OpenOffice.orgプロジェクト
 - 日本のマーケティング担当
- プログラマー／開発者ではありません

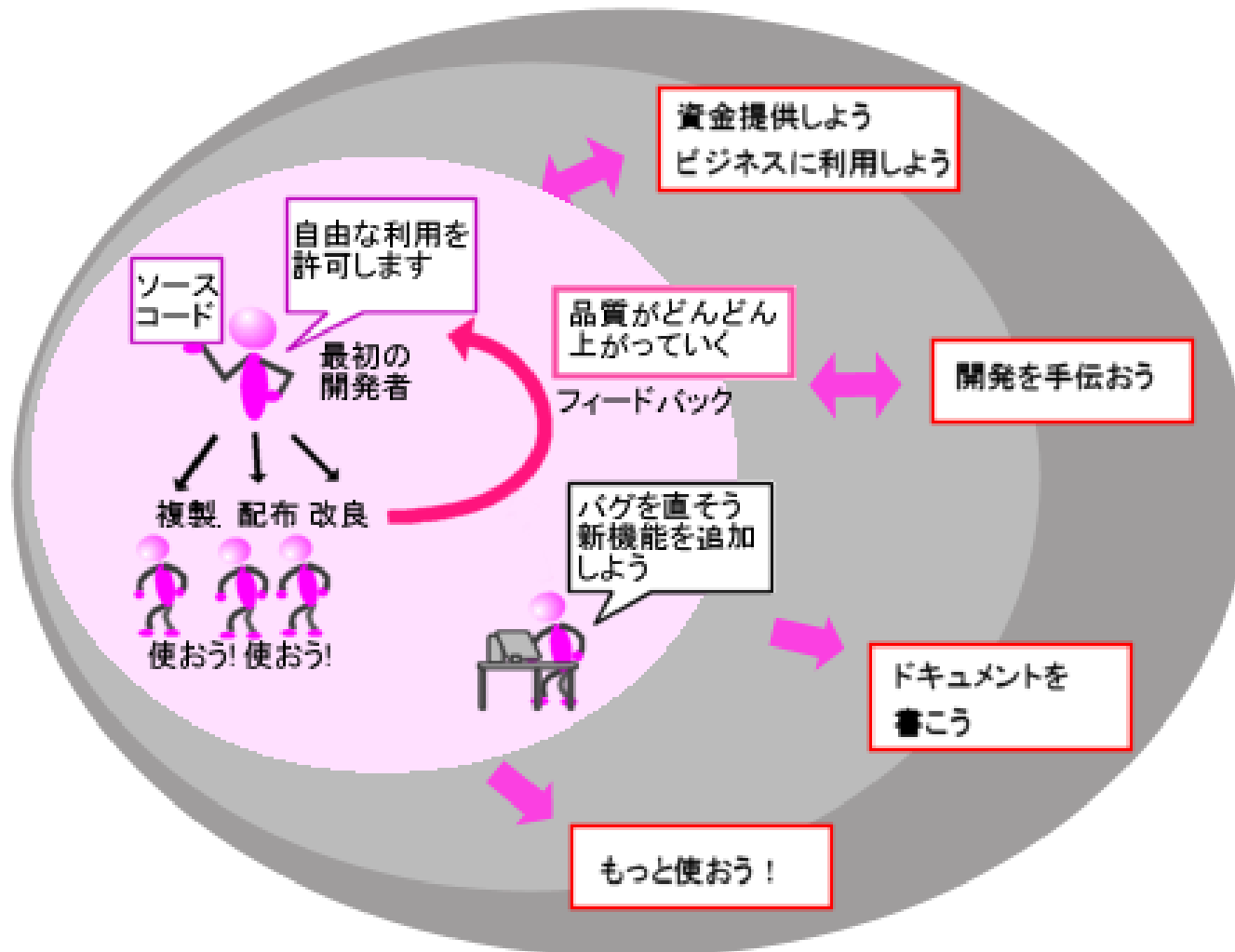


復習: オープンソースとは

- オレ定義
ソースコードを自由に利用(複製・再配布・改良)できる
という条件で公開すること
- オープンソースの定義
<http://www.opensource.jp/osd/osd-japanese.html>
- 効果:
 - 共同開発を促進する
 - ソフトウェアが共有財になる



オープンソースコミュニティとは



誰でも開発に参加できる。
とされている。
能力が高く、成果をだせる人が
相手にされる。
本家ソースコードにコミットできる
人は特定できる
コアメンバーに、匿名性はあまり
ない



OSSコミュニティの実状は、それぞれ

- 中心: 企業、個人 or 財団法人(Foundation)・・・
 - そこだけ見ると、バザールモデルではないように見える
 - 「本家ソースコードに対するコミット権を持つ人の集まり」が重要
- コミュニティの輪郭は、それぞれ
 - どんなソフトウェアが対象か
 - どのような人が集まっているか
 - できたばかりか、時間がたっているか
- それを気にしない人もいる(私も気にしない)
- バザール'伝説'がコミュニティをドライブしている
 - ボランティア(Volunteer)という言葉が誤解を招くような気がする



OpenOffice.orgプロジェクト

- Sun Microsystemsが、StarOfficeをオープンソース化して発足
- <http://www.openoffice.org/>
- 実は、任意団体
- 開発コアチームは、Sun MicrosystemsのStar Division(独)
- 主要言語へのローカライズもSunが担当
- そのほか、多くのボランティアが活動を盛り上げている
- 各言語に対応してNative-Lang Projectがある



OpenOffice.org 日本ユーザー会

- OpenOffice.org 1.0 がリリースされたとき、メーリングリストに集まった人達を中心に発足
- OpenOffice.org Japanese N-L Project でもある(?)
- <http://ja.openoffice.org/>
- 看板が紛らわしいという意見もある
- 「ユーザー会」という名前は、どーよってという意見もあるらしい



どのような作業をしているか

- 日本語での情報発信
- (開発)
- QAテスト 新バージョンリリース直前の動作確認
- ドキュメント作成
- 翻訳
- ユーザーサポート <http://oooug.jp/faq/>
- 反省点:あんまり組織だっていない。やれる人がガンバってる。



あなたが作業に参加するなら

- とにかく、どこも人手不足
- 作業手順の明確なところを見つけて、飛び込むのが吉
- メーリングリストなどに参加して、どしどし手を動かしましょう
- 自分の得意なことをやりましょう
- OpenOffice.org 日本ユーザー会の場合
discuss-ML http://ja.openoffice.org/ml_info.html



共同作業を促進するには -1-

- 個人作業だけなら、コミュニティ不要
- じゃあ、人を集める？
- すべてはコミュニケーション(メッセージ)
 - メール、コード、ドキュメント
- 自分のできることから始めよう
- 完璧でなくても使える形で公開しよう
- やりかけの作業は、あまり見向きもされない
 - できる人にとっては最初からやったほうが早い
 - やりかけの宿題を手伝う奴はいない
 - 口先だけの奴は、もっと相手にされない



共同作業を促進するには -2-

- 実績ができてくると、信用が生まれる
- 信用のある人に、人は集まる → 共同作業
- 信用できる仲間を見つけよう
- 自分が、信用してもらえ人になろう



コミュニケーションの心得

- メッセージはロジック、重要。
- でも、人はロジックだけで動く訳じゃない
- ロジックの対象は言葉だけじゃない
- パーソナリティと信用も大事

- どんな人が集まっているか、よく見る
- 誰が信用できるか見極める
- 集まって欲しくない人が来たら、お引き取り願う場合もある



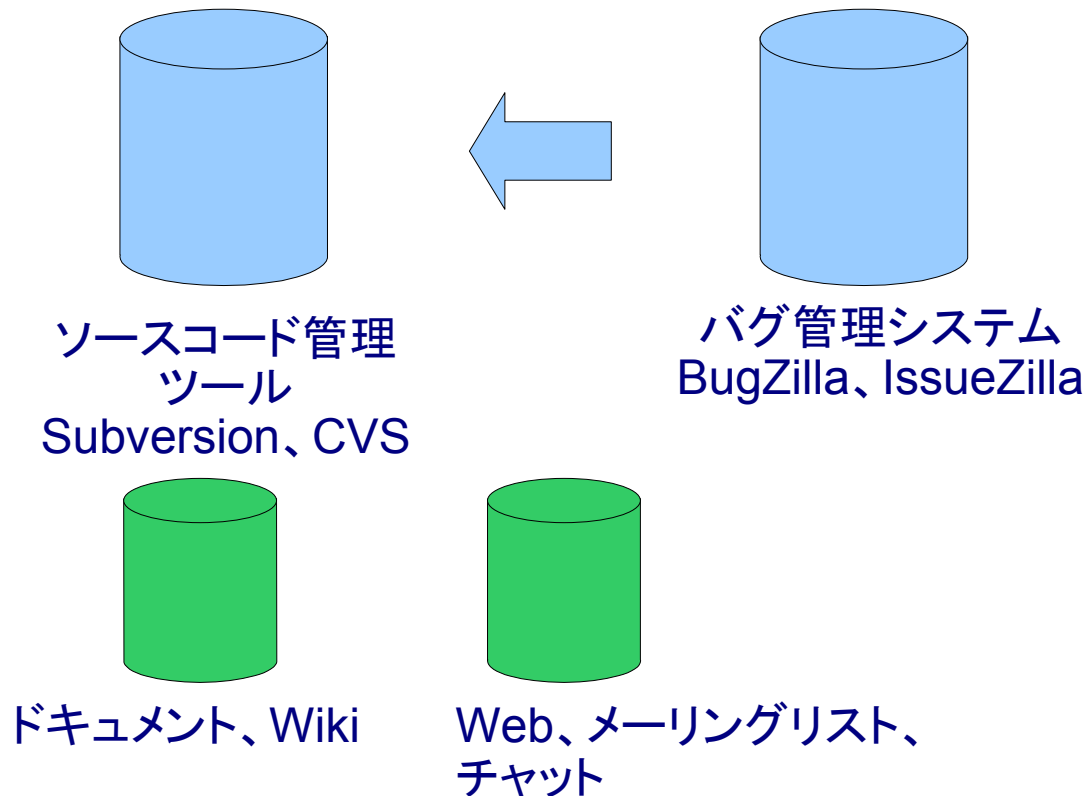
時間が足りない

- 活発に活動している人は、自分の仕事を裁量できる人が多い。
- そんな人は、必ずしも多くない
 - フリーランサー
 - 中小企業の社長・管理職
 - 研究者
- だから、いつも人手不足
- 継続的に関わり続けるのは、さらに大変。
- 私の場合・・・



コミュニティツール

- ほとんどがUnix系のサーバー型Webアプリケーション
- 管理／設営できると便利
- コミュニケーションの力関係はアクセス権に影響される



コミュニティの意志決定

- 輪郭が定かでないコミュニティで意志決定するのは難しい
- でも、誰かが決定権を持っているはず
- 自分のアクセス権がおよぶ範囲なら、意志決定に参加できる
 - 優しい独裁者方式
 - 理事会方式
 - パトロン方式
- 影響力やアクセス権を持たない人の意見・コメント・主張は、アンケートの回答欄に過ぎない
- とはいえ、決定を支持してもらえないと、協力が得られない
- OpenOffice.orgの場合は・・・



オープンな2つのS

- OpenSource
- OpenStandard



最後に - なぜ、参加するのか

- オープンソースコミュニティは、ネットワークRPGだ
 - チームを組み
 - 探検し
 - 障害をクリアして
 - 自分のレベルを上げる
 - そして、共通の目的を達成する
- 実は、現実だってそうなっている
- その面白さがゲームに抽出されているだけ



ありがとうございました

